

最終報告「防災教育開発機構」



平成22年2月23日

防災教育開発機構(人と防災未来センター) 山本健一

中間報告会における委員からのコメント

1. **EARTH**のプログラム修了者がどのような活動につながられるのかがわからないので、明確にしてください。**EARTH**だけでよいのかどうかは疑問です。
2. 成果をどう発信していくか。全国にどう広げていくか。
3. ローカルを意識する。
4. **EARTH**をもっと活用する。
5. 本支援プログラムで重点的に推進した項目がやや不明確である。

事業関係機関

【防災教育推進委員会】

【防災教育開発機構】

兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、
神戸学院大学、兵庫県立舞子高等学校、
人と防災未来センター

神戸海洋気象台、兵庫県防災企画局、
神戸市危機管理室、神戸市消防局



研究機関、教育機関、報道機関、国際機関、
企業、NPO、地域団体、保護者 等

防災教育支援事業 【最終成果】

教材／教育プログラム

幼・小学校

緊急地震速報
関連教材

ユース震災語
り部DVD

GIS活用ハザード
マップ作成

高校

特別
支援

障害者対応

全国防災教材
の分類表

防災教育支援
ガイドブック
(神戸市内の
小学校・地域
連携用の冊子)

未来につなぐ
防災教育
(神戸での実践を
まとめた教員向
け冊子)

研修プログラム

初級・中級・上級

防災教育推進指導員養成講座 <見直し>

上記講座受講→EARTH員

EARTH訓練・研修会 <見直し>

全国普及のための成果取りまとめ冊子

成果の広域普及

全国

防災教育開発機
構ホームページ

EARTH員の活動

震災15年行事、
他地域との連携

地域報告会

兵庫県(地区別)
全公立学校対象
防災教育研修会

神戸市防災教育
担当者研修会

地域

① 防災科学技術教育関連教材等の作成

- ・全国防災教材の分類表
- ・緊急地震速報関連教材
- ・GIS活用ハザードマップ作成授業
- ・障がい者対応教材

② 教職員等対象の研修カリキュラムの開発・実施

- ・様々な目的に対応した教員研修プログラム

③ 実践的な防災教育プログラムの開発・実施

- ・全国・海外で実践可能な防災教育メニュー
- ・大震災が生んだ防災教育の神戸での実践

④ 地域の実情に応じた先進的な取組の実施

- ・全国で活躍するEARTH員
- ・ユース震災語り部「私の語り」

緊急地震速報関連教材

目 的

神戸海洋気象台の知見を得て、緊急地震速報が配信されたらどう対応するべきなのかを「考えてもらう」教材を開発。

取組状況

【平成20年度】＜教材の試行開発＞

カード：それぞれに「頭を守る」「ドアを閉める」等の行動記載。

ワークシート：緊急地震速報の基礎知識の記載と、「寝ているとき」「学校の教室」等の様々な状況の設定。

マニュアル：緊急地震速報の詳細記載と、カードとワークシートを使って様々な学習が可能なことを例示。

【平成21年度】

・兵庫県内小学校で実験授業を実施中。

GISを活用したハザードマップ作成授業

目 的

GISを活用した防災マップの作成や、地域の地震危険度評価等を行う授業を試行し、その内容・手順等を、全国で実施できるプログラム案としてとりまとめ。

取組状況

【平成20年度】

- ・兵庫県、神戸市からのGISデータ提供等によりデータ整備。
- ・兵庫県立舞子高校で地震災害を例に試行(2学期授業)。

【平成21年度】

- ・兵庫県GISデータについて、当機構HPで公開開始。
- ・神戸市立神港高校・情報処理科で、災害危険度GISデータを活用した単元の実施(3学期授業)。

発達・視覚障害等に対応した防災教材

目 的

発達障害や視覚障害のある児童生徒に対する防災教育用のマルチメディア教材の作成。

<背景>「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」の公布(H20.6.18)

取組状況

- ・「幸せ運ぼう 中学生版」(神戸市教育委員会)の一部について試行的なDAISY (Digital Accessible Information System) 化作業を終了。兵庫県内の特別支援教育関係機関に提供し、意見照会中。
- ・今後も、「幸せ運ぼう」「明日に生きる」等をもとに、マルチメディアDAISY教材を開発予定。

様々な目的に対応した教員研修プログラム

【平成20年度】

既存研修プログラムの試行見直し。

【平成21年度】

見直したプログラム(初級・中級・上級各コース、EARTH訓練・研修会)により兵庫県内で実践中。

＜(例)心のケアに関する研修＞

- ・初級コース:「心のケア基礎知識」専門家による講義
- ・中級コース:「心のケア授業」EARTH員による授業指導
- ・上級コース:「心のケア発展知識」EARTH員による講義・演習
- ・EARTH訓練・研修会:心のケアに関するロールプレイ等

＜(例)防災教材を活用した研修＞

- ・防災教材の開発を行うプログラム
- ・防災教育支援事業で開発した教材を活用したプログラム

全国・海外で実践可能な防災教育メニュー

目 的

小学校と地域が連携して防災教育を行えるよう、防災教育メニュー及び実施に必要な事項を示したガイドブックの作成。

取組状況

【平成20年度】

- ・ 神戸市消防局等が中心となって、神戸市内の12のモデル小学校で防災学習、防災訓練の実践。

【平成21年度】

- ・ 上記成果を踏まえガイドブック作成(41防災教育メニューの提示)。神戸市内の全防災福祉コミュニティに配布、消防職員向け研修会開催。
- ・ メニューの一部を紹介する英語版を、JICAと共同作成。JICA国内・海外事務所等へ配布予定。

大震災が生んだ防災教育の神戸での実践 (とりまとめ冊子の作成、普及)

目 的

学校現場において防災教育をどのような考えでどのように進めていくのが望ましいかを、神戸の実践をもとにとりまとめ。

取組状況

【平成20年度】

・冊子「未来につなぐ防災教育」の作成。

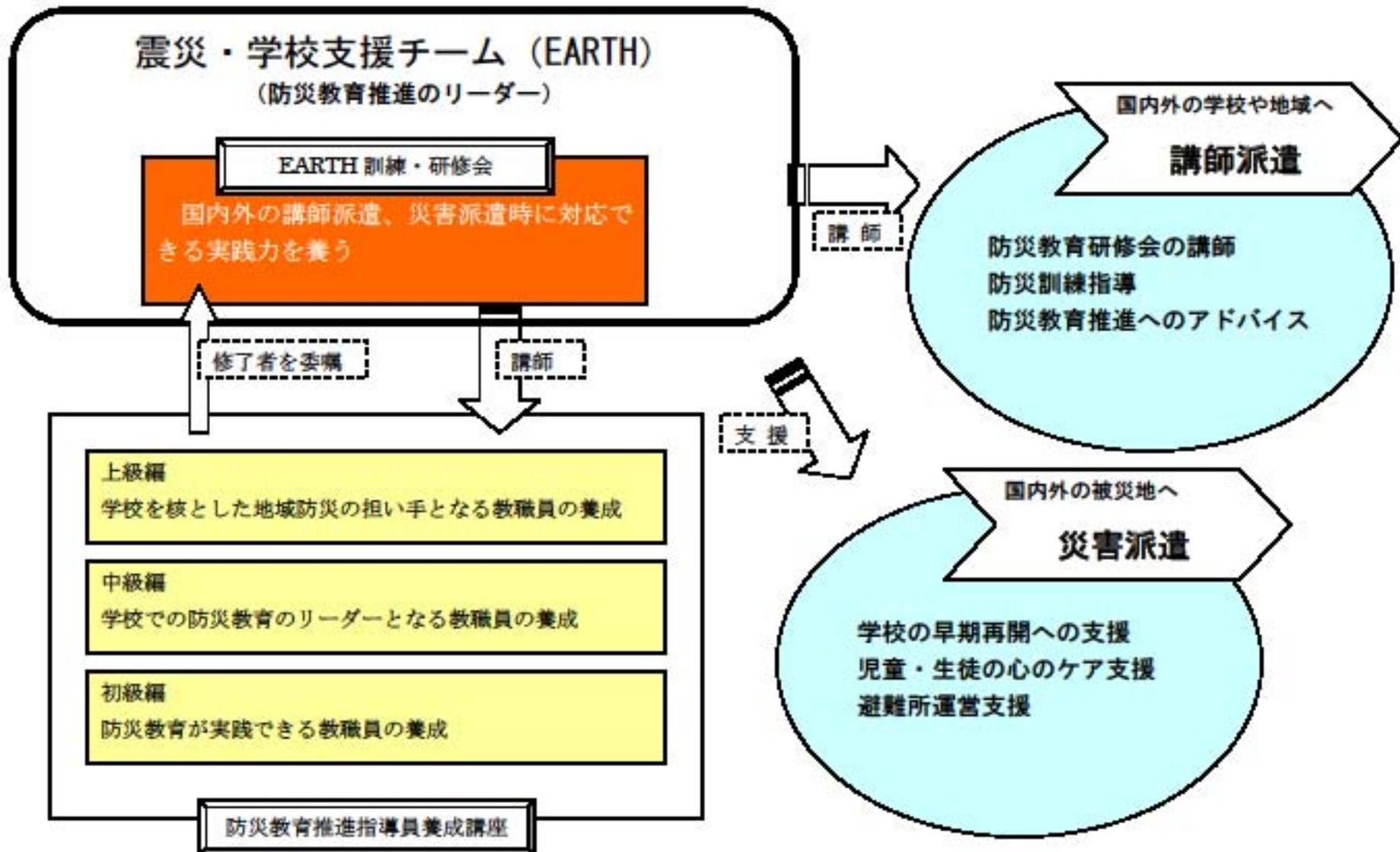
※「ユース震災語り部DVD」の活用状況の紹介等も記載。

【平成21年度】

・神戸市立の全学校(幼・小・中・高・特別支援)に配布、説明。

・他地域に配布し、情報発信。

全国で活躍するEARTH員



ユース震災語り部「私の語り」

◆ 消防士の父が、地震発生直後に家を出て行き、しばらく帰ってこなかった。家族より仕事
が大事なのかと父を憎んだ小学1年生の女
の子は、今、父の背中を追いかけて、消防士に
なった。

◆ 目の前で焼け落ちる家を震えながら見てい
た小学6年生。何も出来ない悔しさを今も心
に抱えながら、戦争で文字を失ったカンボジ
アの子供達に絵本を送る活動を続けている。



当時小学6年生の語りを
現在の小学6年生が聞く
(芦屋市の小学校)



東京消防庁の
3つの防災館
でも常時上映

ユース震災語り部DVD「私の語り」を使った “震災学習”のねらい

今の小・中学生にとっては阪神・淡路大震災は生まれる前の出来事になりました。高校生にとってもほとんど記憶にありません。そんな震災後の世代に、震災を記憶する最後の世代が、震災の事実を伝える意義はとて大きいものです。

ユース震災語り部のDVDを使った授業が、各地で始まっています。このDVDは当時の3歳から18歳までの語りが収録されており、幅広い学年で活用していただけます。また若者たちの語る内容も様々です。一つの語りが約6分ですので、授業の中に取り込みやすいものとなっています。また、複数の語りを関連付けて活用することもできます。何よりも、先生方の工夫の余地が大きく残されているものです。

ここでは、ユース震災語り部DVDを用いた授業モデルを、ほんの一例ですがご紹介します。このモデルを参考に、子どもたちに伝える工夫をしてみてください。



授業を行う地域で
過去に起こった
災害について説明

授業の流れ (1時間先読型の授業例)

ステップ1

～導入～

授業への興味を高めます。

●DVDのサブタイトルをひとつずつ見せ、DVDの内容を子どもたちに推測させてみます。

※観覧前に書いて、少しずつ見せていく。黒板にカードを1枚ずつ出していきながら、アノテーションして下さい。

●サブタイトルは、震災を想像しにくいものから順に並べるとよいでしょう。

●Q&A方式で教師対生徒の言葉のキャッチボールをするよう努めます。

●授業が始まるまで、震災学習であることは秘密にしておくと、子どもたちはより興味をわくことでしょう。

ステップ2

～展開～

DVDを観賞します。

●子どもの年齢、授業のテーマなどに合ったストーリーを1～2編を選んで観賞し、その上で感想を話し合わせましょう。

●DVDの感想をノートに書かします。

●感想をもとに、隣の子ども、周囲の子どもたちと話し合います。

感想を発表します。

●自分の書いた感想や話し合ったことを発表してもらいます。

●発表に対して、先生からの感想や子供たちからの感想を授けとよいでしょう。

ステップ3

～まとめ・定着・強化～

●グループで話し合うテーマを与えます。

(例)
「あなたが同じ立場ならどうしましたか」

●グループの代表に発表させます。

⇒他人の体験を1人称に置き換えることで、より身近に考えるようになります。

⇒自分の想像できる範囲を超えた震災に戸惑い、考えることの大切さを考えます。

授業の流れ

1時間目

●震災の映像、新聞記事、子どもの作文などを使って、阪神・淡路大震災とはどのようなものだったかを学習させます。

●導入部分で、授業を行う地域で過去に起こった災害について説明してもよいでしょう。

2時間目

●パソコンルームを使って、グループごとにDVDを与え、同世代の語りを指定して、自由に見させます。

●DVDの内容について話し合いをさせ、グループの意見をまとめさせます。

3時間目

●グループの意見を発表させます。

●黒板やパワーポイントなどを使って、まとめた内容を視覚的に理解できるように工夫してみるのもよいでしょう。



「防災教育支援事業」成果報告会

—大震災が生んだ新たな防災教育を全国に普及—

平成22年3月9日(火)14:30～17:00

兵庫県民会館11階 パルテホール(神戸市中央区)

【第1部】 報告「大震災の教訓を踏まえた新たな防災教育」

＜報告者＞(報告順)

人と防災未来センター、神戸学院大学、神戸市消防局、
神戸市教育委員会、兵庫県教育委員会、舞子高等学校

【第2部】 パネルディスカッション「新たな防災教育を全国に普及」

＜パネリスト＞

上記報告者 及び 気象庁神戸海洋気象台